

## 感じたことを意欲的に表現する子をめざして ～音やリズムを通した身体表現活動における環境構成と援助の工夫～

那覇市立上間こども園保育教諭 古堅 貴子

### 〈研究の概要〉

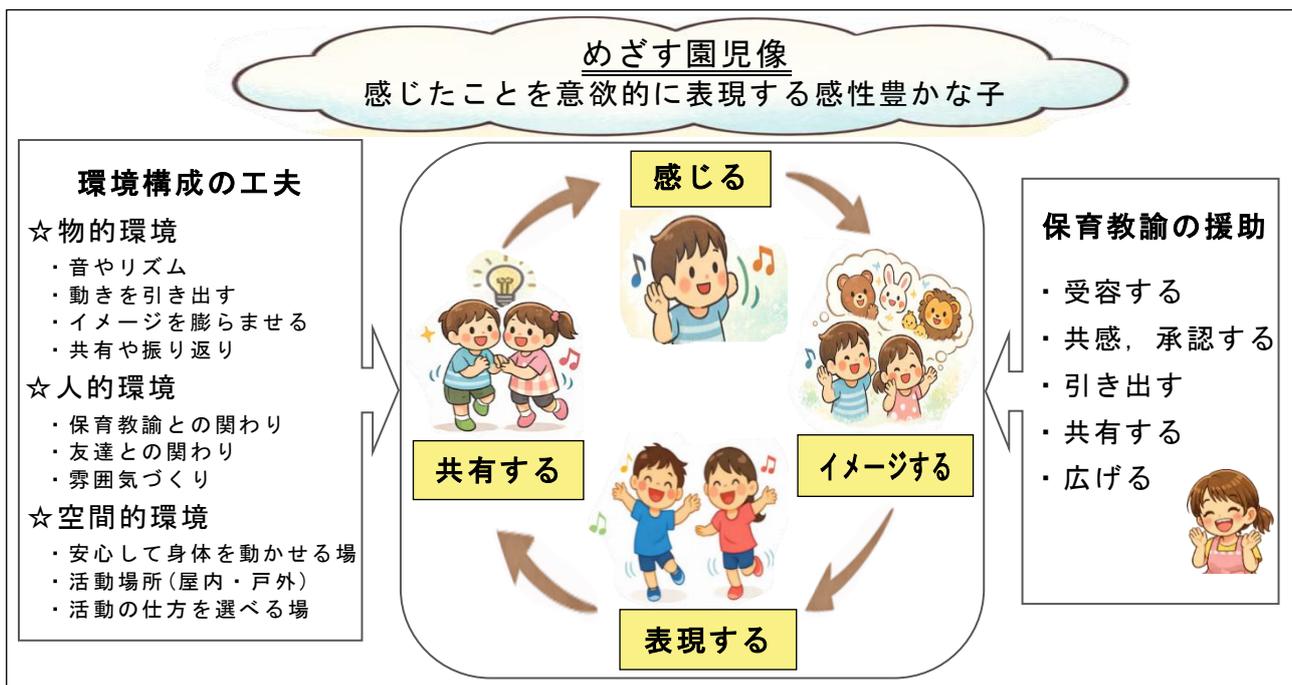
本学級（年長児 23 名）の園児は、歌やリズム遊びを好む一方で、失敗への不安や気恥ずかしさから、表現することにためらいを示す姿や、活動に参加しても自分なりに動いて表現することに難しさを感じる姿が見られた。

そこで本研究では、イメージが喚起されやすい音やリズムを手掛かりとし、園児が感じたことを意欲的に身体の動きで表現しようとする姿をめざして、環境構成と援助の工夫を行った。

実践では、身近な生活音や自然の音に触れる活動から、オノマトペや音楽を手掛かりにイメージを膨らませ、動きを考える活動へと展開した。その中で、音やリズム、絵本など、感じたことを身体の動きへとつなげやすい物的環境を構成するとともに、安心して表現に取り組める人的・空間的環境を整え、園児が表現の仕方を自分で選択できるようにした。また、園児の素朴な表現を受け止め、多様な表現の良さやその過程を具体的に認める援助を行った。

その結果、園児は友達の表現に触れて動きを工夫したり、自分なりに身体表現を試しながら繰り返し取り組んだりする姿が見られるようになった。音やリズムを手掛かりとした環境構成と受容的・共感的な援助を重ねたことにより、園児は安心して表現に向かい、感じたことを意欲的に身体で表現しようとする姿につながったと考える。

### 〈研究のイメージ〉



## 目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究目標	41
III	研究構想図	42
IV	研究内容	42
	1 感じたことを意欲的に表現する子とは	
	2 音やリズムを通した身体表現活動における環境構成と援助の工夫について	
	(1) 幼児にとっての「音やリズム」について	
	(2) 音やリズムを通した身体表現活動について	
	(3) 身体表現活動における環境構成と援助について	
V	保育実践	44
	1 保育計画	
	(1) 実態把握	
	(2) 保育計画	
	2 実践事例	
	(1) 感じたことをもとに、安心して自分なりの身体表現を楽しむ事例	
	【考察】	
	(2) 音やリズムから生まれたイメージを、友達との関わりの中で身体表現へと つなげていく事例	
	【考察】	
	(3) 表現活動に苦手意識や不安のある A 児の変容	
	【考察】	
	3 園児の変容	
VI	成果と課題	50
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

## 感じたことを意欲的に表現する子をめざして ～音やリズムを通した身体表現活動における環境構成と援助の工夫～

那覇市立上間こども園保育教諭 古堅 貴子

### I テーマ設定の理由

近年、ICTの発達により、子どもを取り巻く生活環境は大きく変化している。スマートフォンやタブレット等のデジタルデバイスに日常的に触れる機会が増え、多様な映像や音情報に接する一方で、実際に身体を動かしたり、直接的に感じたりする体験の在り方にも変化が見られるようになってきている。このような状況において、幼児期に感じたことやイメージしたことを表現したり、他者と共有したりして心を通わせる経験は、感性や創造性を育む上で一層重要であると考えられる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（以下、教育・保育要領解説）における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一つである「豊かな感性と表現」では、「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる」と示されている。このことから、園児が感じたことを自分なりに表現し、身近な環境や友達との関わりの中で表現する楽しさや安心感を味わう経験を重ねることが、表現への意欲につながると考える。

本学級の園児は、歌やリズム遊び、リトミックを好み、繰り返し楽しむ姿が見られる。一方で、失敗への不安や気恥ずかしさから表現することにためらいを示す姿や、活動に参加しても自分なりに動いて表現することに難しさを感じる姿も見られる。

これまでの保育を振り返ると、一人一人の気持ちに寄り添い、園児なりの表現を受け止めることを大切にしてきたものの、園児が表現しようとする際の不安やためらいに十分に配慮した環境構成や援助であったとは言い難く、課題があった。

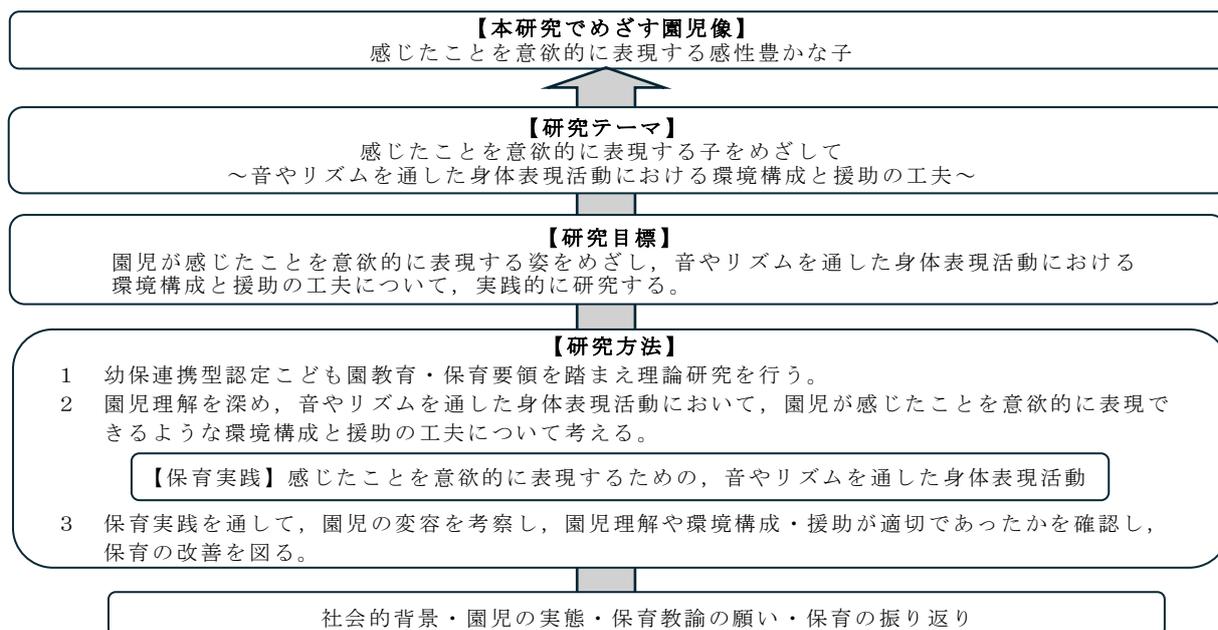
そこで、これらの実態を踏まえ、園児が自分の思いやイメージを意欲的に表現できる機会として「音やリズムを通した身体表現活動」に焦点を当てることとした。園児の表現には、音楽・造形・身体・言葉など多様な形態があるが、身体を使った表現活動は、本学級の園児にとって感情を表しやすく、友達の動きを視覚的・身体的に受け取りやすい活動であると考えられる。また、友達の動きや音・リズムに触れることでイメージが喚起されやすく、表現に向かうことへの安心感や楽しさも生まれやすい。

以上のことから、園児一人一人の感じ方や思いを丁寧に受け止め、安心して自分なりに表現へ向かうことができるような環境構成と援助を大切にしたい保育実践を行うこととした。このような実践を通して、表現することへの自信や意欲を高めながら、感じたことを意欲的に表現する子の育成をめざし、本テーマを設定した。

### II 研究目標

園児が感じたことを意欲的に表現する姿をめざし、音やリズムを通した身体表現活動における環境構成と援助の工夫について、実践的に研究する。

### Ⅲ 研究構想図



### Ⅳ 研究内容

#### 1 感じたことを意欲的に表現する子とは

表現とは、「内面(心)で感じたことや考えたことをその人なりの表情、身振り、言葉、音、物など様々な媒体を通していろいろな方法で外に表すこと」(井上, 2020)である。

教育・保育要領解説の「表現」においては、「幼児期の自己表現は直接的で素朴な形で行われる」ことが多く、「感じること、考えること、イメージを広げることなどの経験を重ね、感性と表現する力を養い、創造性を豊かにしていく」ことや「園児は、遊具や用具に関わり、他の園児の表現などに触れて、心を動かされ、その感動を表現するようになる」と示されている。また「表現する意欲」は、「自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことによって育てられ」、「自分の好きな表現の方法を見つけ出すことができるようにする」ことや、「自分の気持ちを一番適切に表現する方法を選ぶことができるように、様々な表現の素材や方法を経験させること」が重要であると記されている。

これらのことから、「感じたことを意欲的に表現する子」とは、他者や環境との関わりの中で心が動かされ、内面に生じた思いやイメージを、言葉、表情、動き、造形、音楽など他者に伝わる形で表そうとし、その過程を楽しみながら繰り返し表現しようとする子であると考えられる。

本研究では、表現の出来映えのみを評価するのではなく、園児が感じたことを大切にしながら、一人一人が自分なりの方法で表現を楽しむ姿や表現の過程に着目し、保育実践を進めていく。

#### 2 音やリズムを通した身体表現活動における環境構成と援助の工夫について

##### (1) 幼児にとっての「音やリズム」について

吉永(2021)は、「子どもが、身のまわりの音や人の声、音楽からその印象を感じ、共鳴し、感情が起こり、さまざまな連想を引き起こす行為」を「音感受」と定義している。また、「子どもは遊びや生活の中で、身のまわりの音を通して何かに気づいたり、自分のつくり

出す音を楽しんだりしている」と述べ、音が子どもの世界を広げる役割をもつことを指摘している。さらに、佐藤(2020)は、「心臓の鼓動や手首の脈拍からも感じられるように(中略)体内にもリズムが内在している」とし、同じリズムで身体が自然に共振し、他者との呼応や共有へと発展することを明らかにしている。

これらを踏まえると、「音」は子どもの内面的な気付きを促し、「リズム」は身体の動きや他者との関わりを生み出す契機となる。すなわち、「音やリズム」は、幼児の内面の育ちや対人関係の形成に関わる重要な要素であると捉える。

本研究では、音やリズムを、園児が感じたことを表現へとつなぐための重要な手掛かりとして位置付け、保育実践の中に意図的に取り入れる。

## **(2) 音やリズムを通した身体表現活動について**

高野(2015)は、身体表現を「人間の存在そのものの内的イメージを、身体の動きによって外在化する行為」と述べている。教育・保育要領解説「表現」内容(4)においても、「園児は、感じたり、考えたりしたことを身振りや動作、顔の表情や声など自分の身体そのものの動きに託し、自分なりの方法で表現している」とされている。また、同解説「表現」内容(6)では、園児は音楽に関わる活動を好み、音やリズムに合わせて身体を動かす経験が、自分の気持ちを込めて表現する楽しさにつながることを示されている。

さらに高野(2015)は、「身体表現あそびの活動内容」が「音・リズム」「動き」「イメージ」の三つの要素から構成され、これらが相互に関係し密接に絡み合って幼児の身体表現を引き出していくことを明らかにしている。

これらのことから、音やリズムを通した身体表現活動とは、音やリズムを手掛かりとして幼児の内面にある感情やイメージが喚起され、それが身体の動きとして表出されていく活動であると捉える。そしてその経験の積み重ねが、子どもが自分の感じたことを表現してみようとする意欲を育むと考える。

本研究においては、高野(2015)が示す三要素の相互作用の視点を基に保育計画を立案し、特に音やリズムを手立ての中心として位置付ける。これは、本学級の園児が音やリズムに合わせて身体を動かすことに親しみや楽しさを感じている実態と、音やリズムが幼児の内面の育ちや対人関係の形成に関わる要素であることを踏まえたためである。これに基づき、音やリズムを手掛かりとして生まれたイメージが、身体の動きや多様な表現として表れていく過程を大切にしながら、保育実践を進めていく。

## **(3) 身体表現活動における環境構成と援助について**

教育・保育要領解説では、「園児の興味や関心を引き出すような魅力ある環境」を整え、園児の主体的な活動が確保されるよう、教材や人的・物的・空間的環境の工夫を行う必要性が示されている。また、「園児が豊かな体験ができるよう、意図的・計画的に環境を構成する」ことや、園児の遊びや活動の展開に応じて環境を再構成することの重要性も述べられている。

これらのことから、身体表現活動における環境構成は、園児が環境との関わりの中で感じたことを起点として、安心して自分なりの表現に向かえるよう、活動へのきっかけを意図的に整えることが重要であると捉える。

以上を踏まえ、身体表現活動における環境構成を「物的・人的・空間的環境」の3つの視点で整理した(表1)。本研究では表1の視点を基に、園児の興味や関心を大切にしながら、音やリズムを手掛かりとしてイメージを膨らませ、身体表現へとつながるよう環境構成の工夫を行う。

このような環境構成を踏まえ、園児が感じたことを意欲的に表現しようとするためには、その過程を支える保育教諭の援助も重要である。

教育・保育要領解説では、園児が感じたことや心を動かされた経験を言葉以外の様々な方法で表現していることが示されており、保育教諭等がそのような園児らしい素朴な表現を受容し、共感的に受け止めることの大切さが述べられている。また、園児の工夫や感動を認め、共感する関わりは、表現しようとする意欲や喜びにつながるとされている。さらに、共通の経験や感動を伝え合う中でイメージを共有し、表現を楽しむようになることや、身近な環境との関わりを通してイメージの世界を広げていくことも示されている。

これらを踏まえ、身体表現活動における保育教諭の援助を「受容する」「共感・承認する」「引き出す」「共有する」「広げる」の5つの視点で整理した(表2)。本研究では、表2の視点を踏まえ、園児一人一人の感じ方や素朴な表現を受け止めながら、友達との関わりの中で、感じたことを自分なりに表現しようとする意欲が育まれるよう、援助を意図的に行っていく。

表1 身体表現活動における環境構成(筆者作成)

物的環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音やリズムに関する環境 (自然音, 生活音, オノマトペ, リズムダンス, イメージが浮かぶ音楽, 楽器, 音が出る素材など)</li> <li>○動きを引き出す環境 (スカーフ, 新聞紙, 廃材, など)</li> <li>○イメージを膨らませる環境 (絵本, 図鑑, 写真, オノマトペカード, 衣装, 小道具など)</li> <li>○共有・振り返りができる環境 (表現場面の写真・動画など)</li> </ul>
人的環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保育教諭の存在・関わり</li> <li>○友達存在・関わり</li> <li>○雰囲気づくり (温かく受容的, 安心できる, 共に楽しめるなど)</li> </ul>
空間的環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音やリズムを感じながら安心して伸び伸びと身体を動かせる場 (十分な広さ, 安全な空間, 身体の動きを自由に試せるなど)</li> <li>○活動場所(屋内, 戸外)</li> <li>○活動の仕方を選べる場 (全体で行う活動, 一人でじっくり行う活動, 友達と共に楽しむ活動など)</li> </ul>

表2 身体表現活動における保育教諭の援助の視点と主な援助(筆者作成)

援助の視点	主な援助
ア 受容する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の素朴で多様な表現を、出来映えや上手さで評価することなく、そのままの姿として受け止める。</li> </ul>
イ 共感・承認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の感じ方や思いに共感し、肯定的な言葉や態度で応答する。</li> <li>・表現の良さや工夫を具体的な言葉で認めることで、安心感や表現への意欲につなげる。</li> </ul>
ウ 引き出す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の動きやイメージに着目した言葉掛けや関わりを通して、表現へ向かうきっかけをつくる。</li> <li>・園児の興味や関心が高まるような素材などを提示する。</li> </ul>
エ 共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ空間で友達の表現が自然に目に入るようにし、互いの動きやイメージに触れられるよう仲立ちする。</li> <li>・表現しているその場で、友達の動きに気付いたり取り入れたりできるような関わりを大切にする。</li> </ul>
オ 広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児のイメージや動きをつなぐ言葉掛けを行い、動きや表現が次へとつながり、広がっていくよう支える。</li> <li>・表現の変化や動きの工夫などを認め、次の表現へと向かう意欲につなげる。</li> </ul>

## V 保育実践

### 1 保育計画

#### (1) 実態把握

本学級は、年長5歳児23名のクラスである。11月初旬、音やリズムに合わせた身体表

現活動について園児への聞き取りを行った。その結果、ダンスやリズム遊びなど、友達と一緒に音やリズムに合わせて身体を動かすことについては、23名全員が「好き」と回答し、仲間と共に活動する楽しさを感じていることが分かった。一方で、「友達と一緒に動きを考えたことがある」と答えた園児は23名中5名、「みんなの前で自分の動きを見せること」を「好き」と答えた園児は23名中7名にとどまり、活動への参加意欲は高いものの、自分なりに動きを考えたり表現したりすることに苦手意識をもつ園児が多いことも明らかになった。

表3 身体表現活動における園児の姿(実践前)

さらに、音やリズムを手掛かりに、活動の中で園児がどのように身体の動きとして表現しているかに着目し、身体表現活動における園児の姿を見取った(表3)。見取りにあ

	過程1	過程2	過程3	過程4
園児の姿	動いて表現することにためらいが見られる姿	友達や保育教諭の動きを模倣しながら表現しようとする姿	イメージしたことを基に、自分なりに動いて表現しようとする姿	動きを繰り返し試しながら表現を楽しむ姿
実践前	12名	5名	4名	2名

たっては、担任間で事前に観点を共有し、活動中に観察された園児の行動をもとに整理した。その結果、動いて表現することにためらいが見られる園児(過程1)が12名と最も多く、動きを繰り返し試しながら表現を楽しむ園児(過程4)は2名と少数であった。

このことから、音やリズムに合わせて友達と一緒に身体を動かす活動そのものには多くの園児が楽しさを感じている一方で、感じたことを基に、自分なりに動いて表現しようとするには、ためらいを示す園児が多い実態が明らかになった。

## (2) 保育計画

実践	◇ねらい・内容
<p>11月第3週</p> <p>【いろいろな音を見つけよう】 <b>音・リズム</b> <b>動き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園舎内で音探しを行い、見つけた音やオノマトペを身体の動きで表現して遊ぶ。</li> </ul>	<p>◇身近な生活音に触れ、感じたことを自分なりの身体の動きで表現する楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園舎内で音探しを行い、様々な音に気付く。</li> <li>見つけた音やオノマトペを、自分なりの身体の動きで表現して遊ぶ。</li> </ul>
<p>11月第4週</p> <p>【自然の音や風を感じて、身体で表現しよう】 <b>音・リズム</b> <b>動き</b> <b>イメージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園庭や森で身近な自然の音や風を感じながら音探しを行う。</li> <li>感じた音や風の様子からイメージを膨らませ、身体の動きや身近な素材を使って表現して遊ぶ。</li> </ul>	<p>◇自然の音や風の様子から感じたことやイメージしたことを、身体全体や身近な素材を使って表現する楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園庭や森で音探しを行い、気付いた音や感じたことを言葉で伝える。</li> <li>全身で風を感じ、身体全体を使った動きや身近な素材(袋やスカーフ)を用いて、イメージを広げて表現して遊ぶ。</li> </ul>
<p>11月4週</p> <p>【オノマトペカードで、いろいろな動きを試してみよう】 <b>音・リズム</b> <b>動き</b> <b>イメージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名詞・動詞・オノマトペが書かれたカードを選び、言葉を組み合わせながらペアの友達と動きを考え、身体で表現する。</li> </ul>	<p>◇様々な言葉や音から動きをイメージし、友達と一緒に考えながら表現する楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カードに書かれた言葉を組み合わせ、ペアの友達と相談しながら動きを考え、身体で表現する。</li> <li>友達の動きを見て真似したり取り入れたりしながら、いろいろな動きを試して表現して遊ぶ。</li> </ul>
<p>12月第1週</p> <p>【音やリズムに合わせて、動物のイメージを身体で表現してみよう】 <b>音・リズム</b> <b>動き</b> <b>イメージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジャングルのリズムダンスで心と身体をほぐし、友達と触れ合いながら動きを考えて踊ったり動いたりする。</li> <li>リズムダンスや絵本に出てくる動物のいろいろな動きを考え、イメージを膨らませて身体で表現したり、音の出る廃材などを使って表現したりする。</li> </ul>	<p>◇様々な音やリズムに親しみ、伸び伸びと身体を動かす楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音やリズムに合わせて、友達と触れあいながら踊ったり動いたりする。</li> <li>◇イメージした動物の様子を、身体の動きや音を使って表現する楽しさを味わう。</li> <li>音やリズムからイメージした動物の様子を、身体の動きや音の出る廃材などを使って表現して遊ぶ。</li> </ul>
<p>12月第2週</p> <p>【音楽からイメージした動物を、友達と一緒に表現してみよう】 <b>音・リズム</b> <b>動き</b> <b>イメージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聞き、それぞれの曲から感じた雰囲気や色、思い浮かんだ動物について伝え合う。</li> <li>音楽のイメージから浮かんだ動物の動きを、身体の動きや音を使って表現する。</li> <li>自分なりに表現したり友達の動きを見て真似したり、互いのアイデアを取り入れたりしながら表現して遊ぶ。</li> </ul>	<p>◇音楽から感じたことやイメージしたことを、自分なりに身体や音などで表現する楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を聞いて感じたことやイメージしたことを、身体の動きや音を使いながら繰り返し表現して遊ぶ。</li> <li>◇友達とイメージやアイデアを出し合い、一緒に表現する楽しさを味わう。</li> <li>友達と動きを見たり、互いのアイデアを取り入れたりしながら、一緒に表現して遊ぶ。</li> </ul>

## 2 実践事例

### (1) 感じたことをもとに、安心して自分なりの身体表現を楽しむ事例

本事例では、感じたことをもとに、自分なりの身体の動きで表現することを楽しむ姿に着目し、環境構成と援助の工夫を行った。

活動①いろいろな音を見つけよう		
○園児の姿	◎保育教諭の援助	☆環境構成
<p>○床の音や扉の音など園舎内の音に気が付き、「カンカン」「ドンドン」などのオノマトペで友達や保育教諭に伝える姿が見られた。</p> <p>○水道の水を出した一人の園児が、「たくさん出すとジャージャー、少し出すとピチョンだよ」と音の違いに気が付き、腕や体の揺れで表現した。</p> <p>○その姿を見ていた園児が、友達の模倣をして同様に身体を動かしたり、身体の揺らし方を変えたりする姿が見られた。</p> <p>○側で見ていた園児が「おもしろい。みんな動きは違うけど、全部ジャージャーって感じ!」と、言葉で表現する姿があった。</p>  <p>○表現にためらいがある園児も、音探しに参加し、見つけた音について、「この音見つけたよ」と笑顔で伝えていた。</p>	<p>◎音への気付きや発見を受け止め、「面白い音だね」「よく聞いているね」と共感的に関わった。気付きや発見を喜び合うことで、自分の感じたことを安心して表現できるようにした。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・イ〉</p> <p>◎園児のありのままの動きを肯定的に受け止め、表現の意図や気持ちを引き出す言葉掛けを行った。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・イ・ウ〉</p> <p>◎園児の言葉や動きを丁寧に受け止め、友達の表現にも目が向くよう「同じ音でも動きはそれぞれ違うね」「どれもいいね」と言葉にして伝え、多様な表現の面白さや良さに気付けるようにした。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・イ・ウ〉</p> <p>◎表現に消極的な園児の気持ちを尊重し、友達の様子を見ている姿も肯定的に受け止めた。無理に参加を促さず、安心して過ごせる雰囲気づくりを行った。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・イ〉</p>	<p>【物的環境】</p> <p>☆活動の導入として、音のイメージを広げる手掛かりとなるよう、絵本『ことば忍法オノマトペ』の読み聞かせを行った。</p> <p>☆音探しのアイテムとして木製のマドラーを用意し、園児が触れたり叩いたりしながら、素材の違いや音の特徴に気付けるようにした。</p> <p>【人的環境】</p> <p>☆保育教諭も活動に加わり、一緒に楽しむ姿を示すことで、園児が安心して表現に向かえる雰囲気をつくった。</p> <p>【空間的環境】</p> <p>☆園舎内の様々な場所を活用し、いろいろな音の違いや響きを感じられるようにした。</p> <p>☆表現を見せたい園児が自然に前に出られる配置とし、自分なりの動きを生み出しやすく、表現が共有されやすい場を構成した。</p>
活動②自然の音や風を感じて、身体で表現しよう		
○園児の姿	◎保育教諭の援助	☆環境構成
<p>○森の中で、葉の揺れる音や足音、風の音などに気が付き、「葉っぱがカサカサしてる」「風がビュ〜って聞こえる」など、オノマトペで保育教諭や友達に伝え合っていた。</p> <p>○園庭で大きな袋を持って走り、風が吹く中で袋を上下に動かしたり、走る速さを変えたりしていた。</p> <p>○風の表現では、様々な動き「一人で体を揺らす・スカーフを持って動く・友達と手をつないで回る・側転をする」などが見られた。また、両腕を大きく動かしたり、場を移動しながら動いたりする姿もあった。</p> 	<p>◎「どんな音が聞こえた?」と園児の声を聞き、一人一人の感じ方やイメージを丁寧に受け止めた。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・ウ〉</p> <p>◎「集めた音で動いてみたい」という園児の思いを全体に伝え、一人一人の自分なりの動きを尊重しながら活動を共に楽しんだ。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・イ・エ〉</p> <p>◎園児の動きや工夫について「みんなの動き面白いね」と他児にも伝え、表現を共有することで、多様な動きのイメージが広がるようにした。</p> <p>〈表2 援助の視点 イ・ウ・エ〉</p> <p>◎表現が苦手な園児には具体的な動きを提示したり友達の表現を見られるようにしたりして、表現方法を自分で選び、試せるよう見守った。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・イ・ウ〉</p> <p>◎一人で表現する子、友達と関わる子、観察する子など、ありのままの姿を肯定的に受け止めた。また、「よく考えているね」と試行錯誤の過程を認め、自分のペースで表現に取り組めるようにした。</p> <p>〈表2 援助の視点 ア・イ〉</p>	<p>【物的環境】</p> <p>☆様々な音に関心をもち、音探しを楽しみながら活動に向かえるよう、絵本「もりのおとぶくろ」の読み聞かせを行い、見つけた音を集める音袋を用意した。</p> <p>☆風のイメージに合わせたピアノの音やスカーフを用意し、音から生まれたイメージを動きへとつなげやすい環境を整えた。</p> <p>【人的環境】</p> <p>☆保育教諭や友達と共に活動する中で、安心して動きを試せる関係性を大切にし、表現に向かおうとする気持ちを支えた。</p> <p>【空間的環境】</p> <p>☆自然や様々な音を感じられる場と、身体を十分に動かせる空間を設け、自分なりの動きを試すことができる環境を整えた。</p>

#### 【考察】

園舎内や園庭などを活用し、身近な音や自然を感じられる場を設けたことで、園児は音

や風の違いや面白さに気付き、身体で表現する姿が見られた。保育教諭が園児の気付きや発見を受け止め、肯定的に関わったことで、表現が苦手な園児も安心して活動に参加できるようになった。また、友達の様子を見たり模倣したりするなど、動きや表現の違いに触れられるようにしたことで、自分から音や動きに関わろうとする姿が見られた。さらに、スカーフや空間の使い方など、自分なりに選んで試せる環境を整えたことで、園児は自分なりの方法で感じたことやイメージしたことを表現しようとする姿へとつながった。

以上のことから、身近な環境の中で心を動かす体験を保障し、保育教諭が受容的・共感的に関わることは、園児が安心して活動に参加し、自分なりに身体で表現する楽しさを感じる姿につながったと考える。

## (2) 音やリズムから生まれたイメージを、友達との関わりの中で身体表現へとつなげていく事例

本事例では、音やリズムから生まれたイメージをもとに、園児が友達との関わりの中で意欲的に身体で表現しようとする姿に着目し、環境構成と保育教諭の援助を工夫した。

活動①オノマトペカードで、いろいろな動きを試してみよう		
○園児の姿	◎保育教諭の援助	☆環境構成
<p>○選んだカードに書かれている言葉を組み合わせ、ペアで相談しながら動きを考え、身体を使って表していた。表現が苦手な園児も、仲の良い友達と一緒に動きを考える姿が見られた。</p> <p>○友達にアイディアを伝えたりペアの動きを真似したりしながら、〈カメがビュンビュン走る〉や〈虎がパカッパカッ走る〉など、姿勢を低くして走る動きや四つ這いの動きなどいろいろな動きを行う姿が見られた。身体を大きく使った動きや細かな動きを取り入れる様子も見られた。</p> <p>○友達の前で動きを見せたり、友達の表現について「どうやったの?」と尋ねたりする姿が見られた。</p>	<p>◎「このオノマトペはどんな動きが合いそうかな?」などイメージが広がるような問いかけを行い、思い浮かんだ動きを安心して出し合い、試せるようにした。 〈表2 援助の視点 ウ・エ・オ〉</p> <p>◎園児の選んだ動きや工夫を認め、具体的に良さを伝えることで、「やってみたい」「もって試してみたい」と感じながら表現を試せるようにした。 〈表2 援助の視点 ア・イ・ウ〉</p> <p>◎表現を見せ合い、質問や感想を共有する場を設けることで、友達と一緒に表現する楽しさを感じられるようにした。 〈表2 援助の視点 イ・ウ・エ〉</p>	<p>【物的環境】</p> <p>☆名詞や動詞が書かれたカードと、園児が発見したオノマトペが書かれたカードを用意し、言葉や音を手掛かりに動きのイメージを広げられるようにした。</p> <p>☆見つけた音や、園児が表現している様子の写真を掲示し、互いの気付きや表現に触れられるようにした。</p> <p>【人的環境】</p> <p>☆友達同士で思いや考えを伝え合い、互いの動きを取り入れたり認め合ったりする中で、「一緒に表現してみたい」と感じられる雰囲気を整えた。</p> <p>【空間的環境】</p> <p>☆ペアやグループで動きを見せ合える場を設けるとともに、じっくりと試すことができる時間を確保した。</p>
 <p>パカッパカッと走るトラだから、床を手でたたいて、音を出したよ。</p>		
活動②音やリズムに合わせて、動物のイメージを身体で表現してみよう		
○園児の姿	◎保育教諭の援助	☆環境構成
<p>○ジャングルのリズムダンスを繰り返しながら、友達と触れ合いながら、動きを考えて踊ったり動いたりする姿が見られた。</p> <p>○動物の様々な動きを行う中で、「こうしてみよう」「こんな動きどう?」と声を掛け合いながら、全身を使って表現しようとする姿が見られた。ジャンプしたり身体を低くしたりする動きも見られた。</p> <p>○表現の様子を撮影した動画を見た際、「□□さんの、強そう」「それ面白い」と話し、その後自分の動きに取り入れる姿が見られた。</p> <p>○「～することが楽しかった」と振り返ったり、友達の表現を見て「～にそっくり」と感じたことを言葉で伝え合ったりする姿が見られた。</p> <p>○友達の表現を見て、「今度はこうしてみたい」と話し、その後動きを変えて動く姿が</p>	<p>◎「本物の動物みたいでカッコいいね」など、一人一人の表現の良さを認めることで、友達の表現に目を向け、自分なりに動きを試そうとする姿につながるよう関わった。 〈表2 援助の視点 ア・イ〉</p> <p>◎園児の動きやつぶやきを受け止め、友達の表現の良さや違いを言葉にして伝えるなど仲立ちを行った。さらに、「みんな違ってみんないいね」と言葉を掛け、自分や友達それぞれの良さに気付けるようにした。 〈表2 援助の視点 ア・エ〉</p> <p>◎動画や音楽を手掛かりに、園</p>	<p>【物的環境】</p> <p>☆「ジャングルぐるぐる」の曲を用意し、心と身体をほぐしながら、のびのび身体を動かす楽しさを味わえるようにした。</p> <p>☆「できるかな」の絵本と曲を活用し、様々な動物の動きを試したり、表現の幅を広げたりできる環境を整えた。</p> <p>☆自分や友達の表現の良さや工夫に気付けるよう、活動の様子を動画で記録し、見合える機会を設けた。</p> <p>【人的環境】</p> <p>☆表現を見合う中で、感じたことや気付きを友達と伝え合える温かい雰囲気を整えた。</p> <p>☆一人一人の表現が尊重され、互</p>

<p>見られた。</p>  <p>アザラシだよ。 小鳥に変身!</p>	<p>児が自分の表現を振り返ったり、友達の動きに気付いたりする中で、「みんな違ってみんないいね!」と新たな動きを試してみようとする姿につながるようにした。 (表2 援助の視点 ウ・エ・オ)</p>	<p>いの良さや工夫に気付ける関係性を大切にした。</p> <p><b>【空間的環境】</b> ☆自由に動いたり、友達の表現を見たり、互いの動きを見せ合ったりできる活動空間を確保した。</p>
--	--	--

**活動③音楽からイメージした動物を、友達と一緒に表現してみよう**

○園児の姿	◎保育教諭の援助	☆環境構成
<p>○雰囲気異なる音楽を聞いて、「元気になる曲だね」「かわいい」「怖い」など言葉で話す姿が見られた。その後、保育者が思い浮かんだ色について問い掛けると、オレンジやレインボー、黒などの色を挙げて答えていた。</p> <p>○それぞれの音楽からイメージする動物について話し合う中で、「かわいい曲は平和なゾウ」「怖い曲は怒っているゾウ」など異なる言葉で表す姿が見られた。</p> <p>○図鑑や掲示物を見ながら曲と動物を選び、四つ這いになったり腕を広げて走ったりして動く姿が見られた。</p> <p>○「怖いからこの曲では動きたくない」と話し、楽器を手に取り、リズムを打って活動に参加する子の姿も見られた。</p> <p>○友達の動きを見て真似したり、「一緒にやろう」と声を掛け合ったりしながら動く姿があった。また、一人で動く子、友達と同じ動きをする子、友達と役割を分担して動く子などの姿が見られた。</p>  <p>親子ライオン</p> <p>○怖い曲では、「負けないように強くなりたから餌を食べる」と話し、食べる真似をする子の姿もあった。</p> <p>○自分が選んだ音楽が流れると、前に出て表現を見せ合う姿が見られた。また、これまで人前に出ることが少なかった園児も、友達と一緒に前に出て動く様子があった。</p>  <p>表現を見せ合っている様子</p> <p>○友達の表現をきっかけに、「今度はこうしてみたい」と話し、その後動き方を変える子の姿も見られた。</p> <p>○友達から「すごい」「上手だね」と声をかけられた後、同じ動きを繰り返しながら楽しむ姿も見られた。</p>	<p>◎3曲音楽を提示し、「どんな感じがする?」「どんな色かな」と問いかけ、園児が感じたことを友達と共有できるようにした。 (表2 援助ウ・エ・オ)</p> <p>◎園児の発言やイメージを受け止め、「同じ動物でも、感じ方が違っていいよね」「曲が変わると感じ方も変わるんだね」と伝え、多様な捉え方に気付けるようにした。 (表2 援助ア・イ)</p> <p>◎様々な表現方法で自分なりに表現しようとする姿を認め、安心して活動に取り組める雰囲気大切に。 (表2 援助イ)</p> <p>◎動物のイメージを引き出せるような質問や言葉掛けを行い、自分なりの動きを試そうとする姿につながるようにした。 (表2 援助の視点 ウ)</p> <p>◎「お互いの動き方を真似するのも良いね」「役割を分けるのも面白いね」など、一人一人の工夫を認め、他児にも紹介することで、様々な表現の仕方に気付けるよう仲立ちした。 (表2 援助の視点 ウ・オ)</p> <p>◎園児の気付きや感じたことを受け止め、言葉を整理しながら問い返すことで、多様な感じ方や表現の良さが共有されるよう関わった。 (表2 援助の視点 イ・ウ・エ)</p> <p>◎園児が工夫した点や取り組んだ過程を具体的な言葉で認め、自信や自己肯定感を持ちながら、達成感や充実感を味わい、表現を楽しめるよう関わった。 (表2 援助の視点 イ・オ)</p>	<p><b>【物的環境】</b> ☆園児が音楽からイメージした動物を具体的に捉え、動きにつなげられるよう、色や写真とともに掲示した。また、動物の姿や特徴に触れられるよう、図鑑や絵本を用意した。</p>   <p>なんの動物になる?</p> <p>☆曲のイメージに対応した色(元気な曲はオレンジ、かわいい曲はレインボー、怖い曲は紺や茶色)をCDプレイヤーに貼り、園児が自分で選んで操作し、繰り返し聞けるようにした。</p> <p>☆動きだけでなくリズムでも表現できるように、楽器や手作り楽器を用意した。</p> <p>☆イメージをさらに膨らませられるよう、小道具を用意した。</p> <p><b>【人的環境】</b> ☆保育教諭も活動に関わりながら、園児の工夫や面白い表現を言葉にして伝え、共有できるようにした。</p> <p>☆園児一人一人の表現が大切にされ、互いの良さや工夫に気付き合えるような関わりを行った。</p> <p><b>【空間的環境】</b> ☆園児が自由に動きながら、友達の表現を見合い、前に出て発表できる活動空間を確保した。</p>

**【考察】**

オノマトペカードや音楽、図鑑といった物的環境を用意することで、園児は自分の興味やイメージに応じた表現方法を選択し、試しながら意欲的に身体表現に取り組む姿が見られた。また、動画や写真で自分や友達の表現を振り返ることができる環境は、次の動きを工夫する手掛かりとなり、新たな表現に挑戦しようとする姿につながった。さらに、保育

教諭が園児一人一人の工夫や良さを具体的に認め、友達の表現を共有する援助を行ったことで、園児は失敗を恐れず、友達の表現を参考にしながら自分の動きを試す姿が見られた。加えて、楽器や小道具などを自分で選んで使える環境を整えることで、動きに不安のある園児も自分に合った方法で活動に参加する姿が見られた。

以上のことから、多様な表現に触れられる環境構成と、園児の工夫や良さを具体的に伝えながら共有し、自信を持って挑戦しようとする姿を支えた保育教諭の援助は、園児が意欲的に身体で表現し、友達との関わりを通して新たな動きを試す姿へとつながったと考える。

### (3) 表現活動に苦手意識や不安のある A 児の変容

○A 児の姿	◎保育教諭の援助
<p>〈実践前の A 児の姿〉 自分の思いを相手に伝えることができず、表情が硬くなったり、情緒が不安定になって泣いたりする姿が多かった。リトミックやリズムダンスにおいても、見ているだけのことが多かったが、仲の良い友達がそばにいと、活動に参加しようとする姿も見られた。</p>	
<p>【いろいろな音を見つけよう】 ○これまで活動の際に友達の側で見ていたことが多かった A 児が、友達と一緒に園舎内や森で音を探し、見つけるたびに保育教諭に伝える姿が見られた。</p> <p>【オノマトペカードでいろいろな動きを試してみよう】 ○友達から「A さんの動き面白い」と声を掛けられた後、「いろんな動物をやってみよう」と話し、その後も別の動物の動きを試す姿が見られた。</p> <p>【音やリズムに合わせて、動物のイメージを身体で表現してみよう】 ○動物のなりきり遊びの中で、図鑑などを見ながら動物を選び、身体の動きで表す姿が見られた。また、活動後に「～が楽しかった」と友達や保育教諭に話す姿が見られた。 ○活動の中で、「友達と一緒にやりたい」「自分がやりたい動物を選びたい」などと、自分の思いを言葉で伝える姿が見られた。</p> <p>【音楽からイメージした動物を友達と一緒に表現してみよう】 ○友達と一緒に動きを考える場面では、「大人のライオンと子どものライオン」などと話し、役割を分けて動く姿が見られた。 ○表現にためらいが見られる友達に対して、「どれでもいいよ」「真似してもいいよ」「ゆっくりでもいいからね」と声を掛け、側と一緒に動く姿が見られた。</p>	<p>◎本児の緊張や不安感を受け止め、表現に間違いはないことや、友達の真似をしてもよいことを繰り返し伝えながら、安心して活動に取り組めるよう寄り添った。〈表 2 援助の視点 ア・イ〉</p> <p>◎複数の動きを提示して選択できるようにしたり、表現が得意な子の様子を見られるようにしたりした。また、イメージが広がるような質問や言葉掛けを行い、表現しようとする姿を具体的な言葉で認めた。〈表 2 援助イ・ウ〉</p> <p>◎本児なりのイメージや工夫を十分に認め、その良さを他児にも伝えた。さらに、友達との関わりの中でイメージを広げながら表現する経験を重ねられるようにし、表現する楽しさを味わえるようにした。〈表 2 援助の視点 イ・エ・オ〉</p> <p>◎活動の中で積み重ねてきた姿や頑張りを具体的な言葉で認め、本児が自身の成長を実感できるよう関わり、自信や達成感を味わいながら、次の活動へ向かおうとする姿につながるよう援助した。〈表 2 援助の視点 ア・イ・エ・オ〉</p>

#### 【考察】

表現活動に苦手意識や不安が見られていた A 児に対し、緊張や不安感を受け止め、表現に間違いはないことを繰り返し伝えながら受容的に関わった。その結果、A 児は安心して活動に取り組む姿が見られるようになった。また、表現に迷う場面で選択肢を示し、友達の表現に触れられるようにしたことは、模倣を手掛かりに自分なりに動物や役割を選び、様々な動きを試そうとする姿へとつながった。さらに、A 児の表現の良さや工夫を認め、友達と共有するようにしたこと、A 児は自分の思いや感じたことを言葉や動きで表し、友達と関わりながら表現する姿も見られるようになった。

これらのことから、受容的な関わりを基盤に、選択や模倣を認め、友達と共有する経験を積み重ねたことが、A 児の自信を支え、感じたことを基に意欲的に身体で表現する姿につながったと考える。

### 3 園児の変容

身体表現活動における園児の姿を実践前後で比較を行った。実践前には、動いて表現することをためらい、友達の様子を見ている園児など、過程1にとどまっている園児が12名だった。しかし、実践後には、自分なりに動いて表現

表4 身体表現活動における園児の姿（実践前後）

	過程1	過程2	過程3	過程4
園児の姿	動いて表現することにためらいが見られる姿	友達や保育教諭の動きを模倣しながら表現しようとする姿	イメージしたことを基に、自分なりに動いて表現しようとする姿	動きを繰り返し試しながら表現を楽しむ姿
実践前	12名	5名	4名	2名
実践後	1名	3名	11名	8名

したり、繰り返し試したりしながら表現を楽しむ園児の姿が見られるなど、過程3・4が増加した(表4)。特に、過程3・4へと進んだ園児には、友達の表現に触れる中で自分なりに動きを工夫したり、友達とイメージを伝え合いながら身体表現を楽しんだりする姿が見られた。

また、実践後に行った園児への聞き取り調査においては、「みんなの前で自分の動きを見せること」を「好き」と回答した園児が、実践前の7名から22名へと増加した。園児からは、「一人で動くのは恥ずかしいけど友達と一緒にならできた」「友達が『すごい』と言ってくれてパワーがたまった」「友達と一緒にやってみたら楽しくなって、できたことをみんなの前で見せたくなった」といった声が聞かれた。

以上のことから、人前での表現に消極的だった園児も、友達と関わりながら身体表現活動の経験を重ねる中で、安心して自分らしさを発揮するようになったと考える。さらに、自分なりの動きを試したり工夫したりする中で、感じたことを基に意欲的に身体で表現する姿につながったと捉える。

## VI 成果と課題

### 1 成果

- (1) 物的・人的・空間的環境構成を意図的に取り入れたことで、園児は興味やイメージに応じた表現方法を選択し、感じたことを基に意欲的に身体で表現する姿が見られた。
- (2) 園児の素朴な表現を受容し、共感・承認しながら共有する援助を重ねたことで、園児は安心して表現を試し、自分なりに工夫しながら身体で表現を楽しむ姿が見られた。

### 2 課題

表現意欲は高まったものの、表現の幅の広がりには個人差が見られた。友達との関わりを基盤として、身体表現活動で得た楽しさや自信を他の表現活動へとつなげていくための環境構成と援助の工夫が必要である。

### 《主な参考文献》

- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018  
『「音」からひろがる子どもの世界』 吉永早苗 ぎょうせい 2021  
『うきうきわくわく身体表現あそび-豊かに広げよう！子どもの表現世界-』 高野牧子 編著 同文書院 2015